



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 東洋水産株式会社

コード番号 2875 URL <https://www.maruchan.co.jp>

代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）住本 憲隆

問合せ先責任者 （役職名）経理部長 （氏名）早川 崇 TEL 03-3458-5246

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第1四半期	125,803	0.8	18,300	△7.6	20,565	△8.1	15,251	△11.4
2025年3月期第1四半期	124,769	—	19,803	—	22,381	—	17,212	—

（注）包括利益 2026年3月期第1四半期 10,008百万円（△66.6％） 2025年3月期第1四半期 29,980百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	153.09	—
2025年3月期第1四半期	168.54	—

（注）2025年3月期第1四半期は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載しております。

2025年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率は、会計方針の変更に伴い遡及適用を行ったため、記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期第1四半期	592,388	491,615	80.9
2025年3月期	594,978	493,644	80.9

（参考）自己資本 2026年3月期第1四半期 479,073百万円 2025年3月期 481,192百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	80.00	—	120.00	200.00
2026年3月期	—				
2026年3月期（予想）		80.00	—	120.00	200.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期（累計）	265,000	4.6	35,000	△12.1	39,000	△11.8	29,000	△13.5	288.96
通期	545,000	6.4	76,000	△0.7	84,000	△1.4	62,000	△2.9	617.77

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

（注）会計方針の変更に伴い遡及適用を行ったため、対前期増減率及び対前年同四半期増減率は、遡及適用後の前期数値を用いて算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 有 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期1Q	110,881,044株	2025年3月期	110,881,044株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	11,254,600株	2025年3月期	11,254,424株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期1Q	99,626,466株	2025年3月期1Q	102,126,867株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかに回復しておりますが、アメリカの通商政策等による不透明感がみられる状況にありました。先行きにつきましては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されますが、物価上昇やアメリカの政策動向及び金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組むとともに、厳しい販売競争に対応するため、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は125,803百万円（前年同四半期比0.8%増）、営業利益は18,300百万円（前年同四半期比7.6%減）、経常利益は20,565百万円（前年同四半期比8.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は15,251百万円（前年同四半期比11.4%減）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間末の為替換算レート（期中平均レート）は、144.60円/米ドル（前第1四半期連結累計期間末は、155.89円/米ドル）であります。

また、当第1四半期連結会計期間より、在外子会社等の収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算する方法から、期中平均相場により円貨に換算する方法に変更したため、遡及適用後の数値で前年同四半期比較を行っております。（会計方針の変更の詳細はP.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更に関する注記）」をご覧ください。）

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

水産食品事業は、積極的な営業活動により外食向け商品等、売上を伸ばした商品がある一方、不漁が続いた前浜事業やコンビニエンスストア・量販店向け商品における出荷数量の減少等の影響により全体を通じては減収となりました。その結果、売上高は7,884百万円（前年同四半期比2.3%減）、セグメント利益は、一部の商品において価格改定を実施したことにより利益率が改善したことに加え、利益率の高い商品の構成比が高まったこと等により425百万円（前年同四半期比63.3%増）となりました。

海外即席麺事業は、米国では物価上昇により消費マインドが低下する状況下、効果的な販売促進を実施することができず、販売数量は微減となりました。メキシコでは4月に実施した価格改定後もカップ麺は堅調に推移し、袋麺は好調に推移いたしました。その結果、ドルベースでは増収となりましたが、為替の影響により売上高は55,698百万円（前年同四半期比4.7%減）、セグメント利益は、包材の紙カップ化や関税の影響等による原材料費の増加等により12,730百万円（前年同四半期比11.2%減）となりました。

国内即席麺事業は、主力商品を中心に堅調に推移いたしました。カップ麺では「赤いきつねうどん」において全国味くらべ企画を実施したことや、「麺づくり」シリーズにおいて6月に麺増量企画を実施したこと等により増収となりました。袋麺では本格的なお店の味を再現した「マルちゃんZUBAAN!」シリーズが好調に推移いたしました。その結果、売上高は23,686百万円（前年同四半期比6.4%増）、セグメント利益は、人件費や原材料費等の増加はあったものの、売上の拡大等により2,131百万円（前年同四半期比0.5%増）となりました。

低温食品事業は、主力商品の積極的な拡売と新商品の発売により堅調に推移いたしました。生麺では発売50周年となる「マルちゃん焼そば3人前」シリーズにてキャンペーン等の販売促進に加え、限定品の発売によりシリーズの活性化を図りました。その他、涼味商品の伸長等により全般的に堅調に推移いたしました。冷凍食品では冷凍調理品や冷凍野菜関連商品は4月からの価格改定の影響もあり低調に推移いたしましたが、産業給食や外食・行楽関係向けの冷凍麺が堅調に推移いたしました。その結果、売上高は16,080百万円（前年同四半期比5.4%増）、セグメント利益は、人件費や運送費、動力費等の増加はあったものの、売上の拡大等により2,311百万円（前年同四半期比8.7%増）となりました。

加工食品事業は、米飯商品では無菌米飯商品の需要の高い状況が続き、「あったかごはん」シリーズが、レトルト米飯商品では健康意識の高まりもあり「玄米ごはん」シリーズが堅調に推移いたしました。その結果、売上高は5,328百万円（前年同四半期比5.5%増）、セグメント損失は、6月に実施した米飯商品と魚肉ハム・ソーセージ商品の価格改定による売上の拡大等の効果はあったものの、原材料費やフリーズドライ商品の新工場稼働に伴う減価償却費の増加等により392百万円（前年同四半期はセグメント利益186百万円）となりました。

冷蔵事業は、全国的に気温の高い日が多かったことによりアイスクリームを中心に、保管、運送等の取扱いが堅調に推移いたしました。また、エネルギー価格の上昇に対応するため、倉庫料金の価格改定を進めたことにより増収となりました。その結果、売上高は6,703百万円（前年同四半期比9.1%増）、セグメント利益は、物価上昇等の影響による人件費や動力費、運送費等の増加はあったものの、売上が堅調に推移したことにより824百万円（前年同四半期比36.7%増）となりました。

その他は、主に弁当・惣菜事業であります。売上高は10,420百万円（前年同四半期比9.3%増）、セグメント利益は296百万円（前年同四半期比10.5%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比べ総資産は2,590百万円減少し、592,388百万円、純資産は2,029百万円減少し、491,615百万円となりました。この主な変動要因は、以下のとおりであります。

資産は、主に建物及び構築物は増加しましたが、現金及び預金が減少しました。負債は、主に支払手形及び買掛金は増加しましたが、未払費用が減少しました。純資産は、主に利益剰余金は増加しましたが、為替換算調整勘定が減少しました。

この結果、自己資本比率は80.9%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間の業績が想定していた範囲内で推移しているため、2025年5月12日に発表した見通しを変更しておりません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	257,470	247,119
受取手形、売掛金及び契約資産	63,991	64,889
商品及び製品	18,455	19,928
仕掛品	460	558
原材料及び貯蔵品	20,029	19,173
その他	7,126	6,563
貸倒引当金	△811	△814
流動資産合計	366,721	357,418
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	67,826	74,140
機械装置及び運搬具（純額）	46,205	46,424
土地	35,812	35,685
リース資産（純額）	1,246	1,188
建設仮勘定	31,342	30,016
その他（純額）	1,164	1,257
有形固定資産合計	183,599	188,714
無形固定資産		
のれん	670	652
ソフトウェア	1,761	1,582
ソフトウェア仮勘定	2,881	3,429
その他	266	271
無形固定資産合計	5,580	5,935
投資その他の資産		
投資有価証券	35,123	36,564
繰延税金資産	1,051	1,008
退職給付に係る資産	62	61
その他	2,839	2,684
投資その他の資産合計	39,076	40,319
固定資産合計	228,256	234,969
資産合計	594,978	592,388

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	34,959	36,775
短期借入金	442	421
リース債務	288	289
未払費用	27,119	23,729
未払法人税等	4,088	3,738
役員賞与引当金	251	54
その他	6,149	7,086
流動負債合計	73,300	72,095
固定負債		
リース債務	2,671	2,608
繰延税金負債	5,558	6,430
役員退職慰労引当金	316	313
退職給付に係る負債	15,807	15,843
資産除去債務	199	199
その他	3,480	3,281
固定負債合計	28,033	28,677
負債合計	101,333	100,772
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	22,940	22,942
利益剰余金	411,423	414,720
自己株式	△32,181	△32,183
株主資本合計	421,151	424,449
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,021	13,993
繰延ヘッジ損益	△3	△6
為替換算調整勘定	45,909	39,472
退職給付に係る調整累計額	1,113	1,163
その他の包括利益累計額合計	60,040	54,624
非支配株主持分	12,452	12,542
純資産合計	493,644	491,615
負債純資産合計	594,978	592,388

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 6 月 30 日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 6 月 30 日)
売上高	124,769	125,803
売上原価	86,815	89,283
売上総利益	37,954	36,520
販売費及び一般管理費	18,150	18,219
営業利益	19,803	18,300
営業外収益		
受取利息	1,956	1,741
受取配当金	353	409
持分法による投資利益	62	40
雑収入	307	258
営業外収益合計	2,678	2,450
営業外費用		
支払利息	51	48
為替差損	—	43
雑損失	49	93
営業外費用合計	100	185
経常利益	22,381	20,565
特別利益		
固定資産売却益	5	2
投資有価証券売却益	512	—
補助金収入	8	18
特別利益合計	526	21
特別損失		
固定資産除売却損	37	99
その他	0	—
特別損失合計	37	99
税金等調整前四半期純利益	22,870	20,487
法人税、住民税及び事業税	5,231	4,569
法人税等調整額	324	514
法人税等合計	5,556	5,084
四半期純利益	17,314	15,403
非支配株主に帰属する四半期純利益	102	151
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,212	15,251

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	17,314	15,403
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32	953
繰延ヘッジ損益	12	△2
為替換算調整勘定	12,555	△6,436
退職給付に係る調整額	58	51
持分法適用会社に対する持分相当額	5	39
その他の包括利益合計	12,665	△5,394
四半期包括利益	29,980	10,008
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	29,847	9,835
非支配株主に係る四半期包括利益	132	173

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

(在外子会社等の収益及び費用の本邦通貨への換算方法の変更)

在外子会社等の収益及び費用は、従前、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更は、在外子会社の重要性が増してきたため、一時的な為替相場の変動による損益等への影響を緩和し、在外子会社の業績をより適切に連結財務諸表に反映させるために行ったものであります。

当該会計方針の変更を遡及適用し、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用前と比べ、前第1四半期連結累計期間の売上高は1,927百万円、営業利益は464百万円、経常利益は535百万円、税金等調整前四半期純利益は535百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は420百万円それぞれ減少しております。

また、前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前期首残高は2,776百万円減少し、為替換算調整勘定の前期首残高は同額増加しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	4,066百万円	4,168百万円
のれんの償却額	—	18

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
日本	7,925	—	22,255	15,257	5,049	6,145	56,633	9,487	66,121	—	66,121
米州	—	58,462	—	—	—	—	58,462	—	58,462	—	58,462
その他	143	—	—	—	—	—	143	42	185	—	185
売上高(注) 4	8,068	58,462	22,255	15,257	5,049	6,145	115,239	9,530	124,769	—	124,769
外部顧客への売上高	8,068	58,462	22,255	15,257	5,049	6,145	115,239	9,530	124,769	—	124,769
セグメント間の内部 売上高又は振替高	318	—	14	2	0	297	633	6	639	△639	—
計	8,386	58,462	22,270	15,259	5,050	6,443	115,872	9,536	125,409	△639	124,769
セグメント利益	260	14,329	2,120	2,127	186	602	19,627	331	19,958	△155	19,803

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益の調整額△155百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△232百万円、棚卸資産の調整額54百万円及びその他の調整額22百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に営業外取引との相殺消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
日本	7,798	—	23,686	16,080	5,328	6,703	59,597	10,376	69,974	—	69,974
米州	—	55,698	—	—	—	—	55,698	—	55,698	—	55,698
その他	86	—	—	—	—	—	86	44	130	—	130
売上高(注) 4	7,884	55,698	23,686	16,080	5,328	6,703	115,382	10,420	125,803	—	125,803
外部顧客への売上高	7,884	55,698	23,686	16,080	5,328	6,703	115,382	10,420	125,803	—	125,803
セグメント間の内部 売上高又は振替高	355	—	32	4	0	301	694	18	712	△712	—
計	8,240	55,698	23,718	16,084	5,329	7,005	116,077	10,438	126,516	△712	125,803
セグメント利益又は 損失(△)	425	12,730	2,131	2,311	△392	824	18,029	296	18,326	△26	18,300

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△26百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△261百万円、棚卸資産の調整額218百万円及びその他の調整額16百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に営業外取引との相殺消去額であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更に関する注記)に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より在外子会社等の収益及び費用を期中平均相場により円貨に換算する方法に変更を行っております。なお、前第1四半期連結累計期間については遡及適用後の数値を記載しております。